キズナエピソード

丘田マリアンヌ　5話

１２３４５６７８９０１２３４５６７８９０１２３４５６

//とびお自室

//ヴィジュアルノベル形式開始

最近、マリアンヌに避けられている気がする。

何度もメールを送っているのだが、

返信がなかなか返ってこない。

やっと返ってきたメールは、

「すみません、今、忙しいので……」

こんな短い一文だけだった。

胸の奥が苦しくなる。

……俺、なにかマズイことでもやっちゃったのかなぁ。

//次ページ

マリアンヌに、伝えたいこともあるのに……。

スマホの画面を見つめながら、俺はため息をつく。

本当にどうしてしまったんだろう。

りりなら、何か知っているだろうか。

//暗転

//ヴィジュアルノベル形式終了

//ADV形式開始

//マリアンヌの家

［りり］

「マーリー夫ー！　おっはー！　学校行こー？」

［マリアンヌ］

「りりちゃん……、毎日ごめんっス……

けど……」

［りり］

「ん～。今日も学校行くのムリめなカンジ？」

［マリアンヌ］

「面目ないっス……

やっぱりまだ……どうしても……」

［りり］

「そっか～。

じゃ、今日は私も学校サボっちゃお～っと。

ちょうど今日の数学ダルかったんだよね～」

［マリアンヌ」

「なっ！　いやいやいや……！

だ、ダメっす！　そ、それは……

りりちゃんは、僕に構わず、が、学校に行かないと！」

［りり］

「いーのいーの。

アタシがサボりたいと思って休むんだしさ？

それじゃ、マリ夫の部屋上がらせてもらうよ～」

[マリアンヌ]

「えぇ⁉　ちょ、ちょっと……りりちゃん！」

//マリアンヌの部屋

［マリアンヌ］

「な、なんだか……、申し訳ないっス……」

[りり]

「だからなんで謝るんだよ～！

あ、そうそう、昨日とびおからメールが来てさ～

な～んかマリ夫のこと心配してたよ～？」

[マリアンヌ]

「そ、そうっスか……

と、とびお……くんが……」

[りり]

「てかさー、マリ夫、

……とびおにも相談してなかったんだね」

［マリアンヌ］

「と、とびおくんには知られたくないんス！

僕が、その……イジメられてるってこと……

心配……かけたくない……から……」

[りり]

「いや、逆、逆！

そうやって黙ってる方が心配になるっしょ？」

[マリアンヌ]

「そ、それは、そうなんスけど……」

［りり］

「とびおはそんなことを嫌がる男じゃないって！

いいの～？　会いたいんでしょ？　本当は」

［マリアンヌ］

「それはまぁ……。で、でも……

やっぱり……会ってるトコ見られたら……

め、迷惑に……」

［りり］

「あ～も～、マリ夫、暗すぎ！

外でパ～ッとやって気分転換しよ！

せっかく今日は学校休みなんだからさ！」

[りり]

「このまま負けてちゃダメだよ、マリ夫！

アタシの友情パワー注入したげるから、

元気だしなって！　ホラッ！」

（※バシッ）

[マリアンヌ]

「ちょ……、い、痛いっスよぉー！」

[りり]

「アハハ！　ちょっとパワー強すぎた？」

［マリアンヌ］

（りりちゃん……、ありがとう……。

そうっスよね、このままじゃダメっスよね……！）

//暗転

//聖チャールズ学院・3年教室

［］

マリアンヌの教室

［マリアンヌ］

「すー……はー……。

と、とりあえず、ミッション1はクリア……」

［マリアンヌ］

（朝早く登校したおかげで、

誰とも会わずに教室までは来れた……ッス

みんなが来るまでに心の準備を済ませないと）

［マリアンヌ］

（あれ？　もう教室に誰か来てる……？

あの子は、同じクラスの漫研の子……。

カッターを取り出して、いったい何を……⁉）

［マリアンヌ］

「ちょっと待って。そこ、僕の机っスよ……。

な、何してるんスか？」

［漫研部員］

「っ！　丘田さん……！」

［マリアンヌ］

（あ……。思い返せば、最初の嫌がらせは

僕の冊子が『部室』のゴミ箱に捨てられたこと……。

あれは、漫研部員じゃなければ出来ない仕業……！）

［マリアンヌ］

「も、もしかして、今までのこと……

ぜ、全部……あなたが……やったんスか？

な、何故……？」

［漫研部員］

「う、うるさいんだよ！

……このキモオタメガネが！」

［マリアンヌ］

「ひぐっ！　んっ……、ぐぐ……！

ちょっと……手を離してください……苦しいっス！」

［漫研部員］

「私より絵が下手なくせに、コミケでちょっと行列出来た

からって調子に乗らないでくれる⁉」

［マリアンヌ］

「ん……ぐぐ……！　僕は、別に……

調子に……なんて……」

[漫研部員]

「それに私はあの時のコミケで見たんだよ。

あんたが男と仲良くしてるところをさ！

ヘタクソのくせに男まで作るとか！　マジありえない！」

[漫研部員]

「いい？　キモメガネ！　あんたみたいなヘタクソは

一生引きこもってりゃいいの！

どうせあんたの漫画なんてすぐ飽きられるんだから！」

[マリアンヌ]

「ぐぬ……、んん……！」

[漫研部員]

「何よ、その目は！

丘田さん、あなた私のこと見下してるってわけ⁉

えぇ、そうよ、私はどうせ漫画も恋愛も売れ残りよ！」

[マリアンヌ]

「ぼ、僕は……、あなたのことを下にみたことなんて……」

［漫研部員］

「へー、それって、私なんて眼中にないってこと？

じゃあ、忘れられないように刻んであげようか？

私より下だって印を、このカッターを使ってさ！」

［マリアンヌ」

「ひぅっ！　や……やめっ！」

［］

「おはようございまーす」

「あ、おはよー、ミナっちー！」

「むーたん、おはー」

［漫研部員］

「チッ……邪魔が入ったか……！

……丘田さん。今のこと誰かに言ったら、

絶対に許さないから！」

[漫研部員]

「二度と漫画が描けない体にしてやる……！

いい？　わかった!?」

［マリアンヌ］

「……ひぐっ！」

//マリアンヌ退場

［女生徒A］

「おはよー、って、さっきの丘田さん？」

［女生徒B］

「登校してたんだー。どっか行っちゃったけど」

//暗転

//外

［マリアンヌ］

（はぁ……、

せっかくりりちゃんにパワーもらったのに

結局、授業には出られなかったっスね……）

［マリアンヌ］

（漫研でも一緒に活動して……

いつかプロデビューしたいって夢を語り合って…）

[マリアンヌ]

（ずっと仲間だと思ってたのに、どうして……？

僕は、どうすれば……）

//マリアンヌの家の前

［マリアンヌ］

「あ」

［とびお］

「よ、よぉ。ひさしぶり」

［マリアンヌ］

「と、とびおくん……」

［とびお］

「マリアンヌのこと、心配になってさ。

メールも全然返ってこないし」

[とびお]

「……ってマリアンヌ？　泣いてるのか？」

［マリアンヌ］

「ひぐっ。とびおくん……とびおくん！

わぁああぁぁあぁ～～～～ッ！」

//ADV形式終了

//5話終了